

化学物質が河川から海域（河口沖）に流入した場合の希釈率

(1) 東京湾

No. 1

分類			農薬	ホルモン				フタル酸エステル類				
年度			H13	H13	H13	H13		H13	H14		H13	
No.	河川名	調査地点名	ペノミル	17β-エストラジオール(ELISA)	17β-エストラジオール(GC/MS)	エストロン		フタル酸ジ-2-エチルヘキシル			7シ'ヒン酸ジ-2-エチルヘキシル	
			7月	7月	7月	7月	10月	7月	7月	10月	7月	
検出下限値			0.1	0.0028	0.0001	0.0001	0.0001	0.5			0.01	
区部1	中川	飯塚橋	0.1 (0.50)	N.D.	N.D.	0.0003 (1.00)	0.0001 (1.00)	1.5 (6.00)			N.D.	
区部3	荒川	堀切橋	0.4 (2.00)	N.D.	N.D.	0.0007 (2.33)	0.0002 (2.00)	1.0 (4.00)	0.7 (2.80)	N.D.	N.D.	
区部2	中川	平井小橋	0.2 (1.00)	N.D.	N.D.	0.0005 (1.67)	0.0002 (2.00)	1.1 (4.40)	N.D.	N.D.	N.D.	
区部9	東京湾	荒川河口沖 (St. 8)	0.2	N.D.	N.D.	0.0003	0.0001	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	
区部5	新河岸川	志茂橋	0.3 (3.00)	0.0060 (4.29)	0.0004 (8.00)	0.0018 (2.57)	0.0029 (0.40)	0.7 (2.80)	1.0 (4.00)	N.D.	N.D.	
区部6	石神井川	豊石橋	0.2 (2.00)	0.0054 (3.86)	N.D.	0.0007 (1.00)	0.0014 (0.19)	0.5 (2.00)			N.D.	
区部4	隅田川	両国橋	0.2 (2.00)	N.D.	0.0002 (4.00)	0.0040 (5.71)	0.0035 (0.48)	1.0 (4.00)	1.6 (6.40)	1.0 (4.00)	N.D.	
区部7	神田川	一休橋	0.2 (2.00)	N.D.	0.0003 (6.00)	0.0013 (1.86)	0.0002 (0.03)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	
区部8	目黒川	大鼓橋	0.2 (2.00)	0.0055 (3.93)	N.D.	0.0049 (7.00)	0.0003 (0.04)	N.D.	N.D.	N.D.	0.01 (2.00)	
区部10	東京湾	隅田川河口沖 (St. 5)	0.1	N.D.	N.D.	0.0007	0.0073	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	
多摩1	多摩川	和田橋	N.D.	N.D.	0.0002 (0.67)	0.0003 (0.25)	N.D.	N.D.			N.D.	
多摩2	平井川	多西橋 (合流点前)	N.D.	N.D.	N.D.	0.0003 (0.25)	0.0002 (0.20)	N.D.			0.03 (1.50)	
多摩4	谷地川	新旭橋	N.D.	N.D.	N.D.	0.0014 (1.17)	0.0001 (0.10)	5.0 (20.00)			N.D.	
区部11	東京湾	多摩川河口 (St. 32)	N.D.	0.0032	0.0003	0.0012	0.0010	N.D.			0.02	
多摩1	多摩川	羽村堰							N.D.	N.D.		
多摩2	谷地川	新旭橋							N.D.	0.5 (2.00)		
区部7	仙川	鎌田橋							N.D.	N.D.		
区部10	東京湾	多摩川河口 (St. 32)							N.D.	N.D.		
平均希釈率			(1.81)	(4.02)	(4.67)	(2.26)	(0.64)	(6.17)	(4.40)	(3.00)	(1.75)	
平均希釈率 (物質別)			(1.81)	(4.02)	(4.67)	(1.49)		(5.20)			(1.75)	
平均希釈率 (東京湾平均)			(4.10)									

単位 (μg/L)

- 注1) 「平成13・14年度 東京都 内分泌攪乱化学物質調査分析結果(水質)」より作成  
 注2) 上記調査のうち、いずれかの水域において検出があったもののみを表に記載  
 注3) 平均希釈率は、河川で明確な検出があったもののみを用いて算出  
 注4) ( )内の値は、調査河川の河口沖における濃度を1としたときの調査地点の濃度比(河口沖における希釈倍率に相当)  
 注5) N.D.=検出下限値の1/2として計算

別添12

分類			アルキルフェノール類										
年度			H13		H13		H14		H13		H14		H13
No.	河川名	調査地点名	4-t-ブチルフェノール	ノニルフェノール				4-t-オクチルフェノール				4-n-オクチルフェノール	
			7月	7月	10月	7月	10月	7月	10月	7月	10月	7月	
検出下限値			0.01		0.1				0.01				0.01
区部1	中川	飯塚橋	N.D.	0.4 (1.33)	0.3 (1.50)			0.04 (1.33)	0.02 (1.00)				0.04 (4.00)
区部3	荒川	堀切橋	0.05 (2.50)	1.0 (3.33)	0.3 (1.50)	1.0 (20.00)	0.7 (14.00)	0.17 (5.67)	0.03 (1.50)	0.15 (30.00)	0.05 (10.00)		0.04 (4.00)
区部2	中川	平井小橋	0.03 (1.50)	0.6 (2.00)	0.4 (2.00)	0.4 (8.00)	0.5 (10.00)	0.07 (2.33)	0.03 (1.50)	0.04 (8.00)	0.04 (8.00)		0.05 (5.00)
区部9	東京湾	荒川河口沖 (St. 8)	0.02	0.3	0.2	N.D.	N.D.	0.03	0.02	N.D.	N.D.		0.01
区部5	新河岸川	志茂橋	0.04 (4.00)	0.4 (8.00)	0.1 (2.00)	0.2 (4.00)	N.D.	0.07 (14.00)	0.02 (4.00)	0.03 (6.00)	0.02 (2.00)		N.D.
区部6	石神井川	豊石橋	0.05 (5.00)	0.5 (10.00)	0.2 (4.00)			0.09 (18.00)	0.04 (8.00)				N.D.
区部4	隅田川	両国橋	0.06 (6.00)	0.7 (14.00)	0.2 (4.00)	0.3 (6.00)	0.4 (8.00)	0.13 (26.00)	0.03 (6.00)	0.04 (8.00)	0.04 (4.00)		N.D.
区部7	神田川	一休橋	N.D.	0.1 (2.00)	N.D.	N.D.	N.D.	0.01 (2.00)	N.D.	N.D.	0.01 (1.00)		N.D.
区部8	目黒川	太鼓橋	N.D.	0.2 (4.00)	N.D.	N.D.	N.D.	0.02 (4.00)	0.01 (2.00)	N.D.	0.01 (1.00)		N.D.
区部10	東京湾	隅田川河口沖 (St. 5)	0.01	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01 (1.00)		N.D.
多摩1	多摩川	和田橋	N.D.	N.D.	N.D.			N.D.	0.01 (2.00)				N.D.
多摩2	平井川	多西橋 (合流点前)	N.D.	N.D.	N.D.			N.D.	N.D.				N.D.
多摩4	谷地川	新旭橋	N.D.	0.2 (2.00)	N.D.			0.04 (4.00)	N.D.				N.D.
区部11	東京湾	多摩川河口 (St. 32)	0.01	0.1	N.D.			0.01	N.D.				N.D.
多摩1	多摩川	羽村堰				N.D.	N.D.			N.D.	N.D.		
多摩2	谷地川	新旭橋				0.2 (4.00)	0.2 (4.00)			0.01 (2.00)	0.02 (4.00)		
区部7	仙川	鎌田橋				N.D.	N.D.			0.02 (4.00)	N.D.		
区部10	東京湾	多摩川河口 (St. 32)				N.D.	N.D.			N.D.	N.D.		
平均希釈率			(3.80)	(5.19)	(2.50)	(8.40)	(9.00)	(8.59)	(3.25)	(9.67)	(4.29)		(4.33)
平均希釈率 (物質別)			(3.80)	(5.82)				(6.38)				(4.33)	
平均希釈率 (東京湾平均)			(4.10)										

単位 (μg/L)

- 注1) 「平成13・14年度 東京都 内分泌攪乱化学物質調査分析結果(水質)」より作成
- 注2) 上記調査のうち、いずれかの水域において検出があったもののみを表に記載
- 注3) 平均希釈率は、河川で明確な検出があったもののみを用いて算出
- 注4) ( ) 内の値は、調査河川の河口沖における濃度を1としたときの調査地点の濃度比(河口沖における希釈倍率に相当)
- 注5) N.D=検出下限値の1/2として計算

分類			ビスフェノールA及びクロロフェノール類				芳香族化合物 (VOCs以外)				ー	
年度			H13		H14		H13	H13		H14		H13
No.	河川名	調査地点名	ビスフェノールA				2,4-ジクロロフェノール	ベンゾフェノン				ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル
			7月	10月	7月	10月	7月	7月	10月	7月	10月	7月
検出下限値			0.01				0.01	0.01				0.3
区部1	中川	飯塚橋	0.11 (0.92)	0.14 (1.08)			N.D.	0.02 (0.67)	0.02 (0.67)			0.8 (2.00)
区部3	荒川	堀切橋	0.49 (4.08)	0.14 (1.08)	0.26 (4.33)	0.12 (3.00)	0.02 (4.00)	0.10 (3.33)	0.02 (0.67)	0.03 (6.00)	0.06 (3.00)	1.0 (2.50)
区部2	中川	平井小橋	0.16 (1.33)	0.14 (1.08)	0.14 (2.33)	0.09 (2.25)	N.D.	0.04 (1.33)	0.02 (0.67)	0.07 (14.00)	0.06 (3.00)	0.3 (0.75)
区部9	東京湾	荒川河口沖 (St. 8)	0.12	0.13	0.06	0.04	N.D.	0.03	0.03	N.D.	0.02	0.4
区部5	新河岸川	志茂橋	0.42 (7.00)	0.08 (4.00)	0.11 (5.50)	0.09 (2.25)	0.03 (6.00)	0.05 (2.50)	0.02 (4.00)	0.02 (4.00)	0.03 (3.00)	1.1 (2.75)
区部6	石神井川	豊石橋	0.25 (4.17)	0.13 (6.50)			0.02 (4.00)	0.04 (2.00)	0.02 (4.00)			0.8 (2.00)
区部4	隅田川	两国橋	0.28 (4.67)	0.09 (4.50)	0.18 (9.00)	0.10 (2.50)	0.02 (4.00)	0.09 (4.50)	0.02 (4.00)	0.03 (6.00)	0.04 (4.00)	1.6 (4.00)
区部7	神田川	一休橋	0.02 (0.33)	0.01 (0.50)	0.02 (1.00)	N.D.	0.02 (4.00)	0.03 (1.50)	0.01 (2.00)	0.02 (4.00)	0.01 (1.00)	0.7 (1.75)
区部8	目黒川	太鼓橋	0.05 (0.83)	0.02 (1.00)	0.02 (1.00)	0.02 (0.50)	0.02 (4.00)	0.02 (1.00)	0.02 (4.00)	N.D.	0.02 (2.00)	0.7 (1.75)
区部10	東京湾	隅田川河口沖 (St. 5)	0.06	0.02	0.02	0.04	N.D.	0.02	N.D.	N.D.	0.01	0.4
多摩1	多摩川	和田橋	N.D.	0.03 (0.75)			N.D.	N.D.	N.D.			1.0 (0.71)
多摩2	平井川	多西橋 (合流点前)	0.01 (0.10)	N.D.			N.D.	N.D.	N.D.			N.D.
多摩4	谷地川	新旭橋	0.72 (7.20)	0.15 (3.75)			N.D.	N.D.	N.D.			4.9 (3.50)
区部11	東京湾	多摩川河口 (St. 32)	0.10	0.04			N.D.	N.D.	N.D.			1.4
多摩1	多摩川	羽村堰			N.D.	N.D.				N.D.	N.D.	
多摩2	谷地川	新旭橋			0.19 (38.00)	0.11 (5.50)				N.D.	N.D.	
区部7	仙川	鎌田橋			0.05 (10.00)	0.02 (1.00)				N.D.	N.D.	
区部10	東京湾	多摩川河口 (St. 32)			N.D.	0.02				N.D.	N.D.	
平均希釈率			(3.06)	(2.42)	(8.90)	(2.43)	(4.33)	(2.10)	(2.50)	(6.80)	(2.67)	(2.17)
平均希釈率 (物質別)			(4.09)				(4.33)	(3.22)				(2.17)
平均希釈率 (東京湾平均)			(4.10)									

単位 (μg/L)

- 注1) 「平成13・14年度 東京都 内分泌攪乱化学物質調査分析結果 (水質)」より作成
- 注2) 上記調査のうち、いずれかの水域において検出があったもののみを表に記載
- 注3) 平均希釈率は、河川で明確な検出があったもののみを用いて算出
- 注4) ( ) 内の値は、調査河川の河口沖における濃度を1としたときの調査地点の濃度比 (河口沖における希釈倍率に相当)
- 注5) N.D.=検出下限値の1/2として計算

(2) 伊勢湾

分類		農薬	ホルモン			ビスフェノールA及びクロロフェノール類		スチレンモノマー	
年度		H14	H12		H13	H12		H12	
河川名	調査地点名	シマジン	17β-エストラジオール			ビスフェノールA		スチレンモノマー	
		不明	夏	冬	9月	夏	冬	夏	冬
検出下限値		0.02	0.001 (定量限界値: 0.003)			0.01 (定量下限値: 0.03)		0.01 (定量下限値: 0.03)	
磐田川	観音橋	N.D.	0.004 (0.31)	0.008 (4.00)	0.0021 (2.33)	tr	tr	tr	N.D.
津市沖	伊勢湾 (st.1)	未調査	0.013	tr	0.0009	tr	N.D.	tr	0.03
長野川	長野橋	0.03	tr	tr	0.0015 (1.36)	N.D.	N.D.	tr	N.D.
香良洲町沖	伊勢湾 (st.2)	未調査	0.007	0.009	0.0011	N.D.	N.D.	tr	tr
平均希釈率			(0.31)	(4.00)	(1.85)				
平均希釈率 (物質別)			(2.00)						
平均希釈率 (伊勢湾平均)			(2.00)						

単位 (μg/L)

- 注1) 「平成12~14年度 環境ホルモン (外因性内分泌攪乱化学物質) の調査結果」 (三重県) より作成  
 注2) 上記調査のうち、いずれかの水域において検出があったもののみを表に記載  
 注3) 平均希釈率は、河川で明確な検出があったもののみを用いて算出  
 注4) ( ) 内の値は、調査河川の河口沖における濃度を1としたときの調査地点の濃度比 (河口沖における希釈倍率に相当)  
 注5) N.D.=検出下限値の1/2として計算  
 注6) tr (痕跡程度検出されたことを示す。検出下限値以上、定量下限値未満) =検出下限値と定量限界値の平均として計算

(3) 尾鷲湾

分類		ホルモン			フタル酸エステル類		スチレンモノマー	
年度		H12		H13	H12		H12	
河川名	調査地点名	17β-エストラジオール			アジピン酸ジ-2-エチル ヘキシル	スチレンモノマー		
		夏	冬	9月	夏	夏	冬	
検出下限値		0.0001			0.01	0.01(定量下限値:0.03)		
銚子川	銚子橋	N. D.	N. D.	0.0005 (0.45)	N. D.	tr	tr	
海山町沖	尾鷲湾 (st.2)	0.005	0.004	0.0011	N. D.	tr	tr	
矢の川	矢の川橋	N. D.	N. D.	0.0039 (1.63)	0.03 (6.00)	0.04 (8.00)	N. D.	
尾鷲市沖	尾鷲湾 (st.1)	0.008	0.007	0.0024	N. D.	N. D.	0.06	
平均希釈率				(1.04)	(6.00)	(8.00)		
平均希釈率(物質別)				(1.04)	(6.00)	(8.00)		
平均希釈率(尾鷲湾平均)				(4.02)				

単位(μg/L)

注1) 「平成12~14年度 環境ホルモン(外因性内分泌攪乱化学物質)の調査結果」(三重県)より作成

注2) 上記調査のうち、いずれかの水域において検出があったもののみを表に記載

注3) 平均希釈率は、河川で明確な検出があったもののみを用いて算出

注4) ( )内の値は、調査河川の河口沖における濃度を1としたときの調査地点の濃度比(河口沖における希釈倍率に相当)

注5) N. D.=検出下限値の1/2として計算

注6) tr(痕跡程度検出されたことを示す。検出下限値以上、定量下限値未満)